

主題：「神の宮である召会（神の永遠のエコノミーの目標）」
の内在的な意義

メッセージ 12

宮の材料（2）

聖書：Ⅰコリント 3:12-17. Ⅱコリント 5:9-11. マルコ 14:7-8. ガラテヤ 2:20. Ⅰペテロ 2:4-7. 啓 3:8, 12

- I. 契約の箱を除いて（列王上 6:19）、宮の中の調度品と器具の大きさと数は、幕屋のものから大きく拡大しました（歴代下 4:1-8）。このことは、キリストご自身（契約の箱によって表徴される）が拡大されることはあり得ませんが、宮とその調度品と器具によって表徴される、わたしたちがキリストのすべての豊富においてキリストを経験することは、大きく増し加わり、拡大されて、彼の拡大した表現に符号すべきです——エペソ 3:8, 14-19. ピリピ 3:7-14. 参照、歴代上 22:14-19. 29:2-4：
- II. ダビデは、彼に与えられたビジョンにおいて、器の大きさだけでなく、またその重さも見ました。その大きさと重さが表徴するのは、召会におけるキリストのさまざまな面の経験と、肢体のさまざまな賜物と機能は、正しく釣り合い、均衡が保たなければならないということです—— 28:14：
 - A. 歴代志第 28 章 15 節にはとても良い語りかけがあります。それは言います、「それぞれの……重さが示され、各種の燭台の奉仕にしたがって」。言い換えると、宮の中のそれぞれの物の重さは、その奉仕に適合していたということです——列王上 6:20. エペソ 3:18。
 - B. 召会の必要は多面的であり、キリストのからだには多くの機能を持つ多くの肢体があり、それらの多くの必要を満たします。多かれ少なかれ、あらゆる器には欠くことのできない機能があります—— 4:16. Ⅰコリント 12:14-31. Ⅱコリント 10:13。
- III. わたしたちは、正しい材料で神の宮としての召会を建造することに注意する必要があります。キリストの裁きの座において、それぞれの働きは、「それぞれの働きがどんなものであるか」にしたがって証明されます。わたしたちがキリストの裁きの座において裁かれるのは、わたしたちの働きの量にしたがってではなく、質にしたがってです——Ⅰコリント 3:12-17. 雅 1:10-11. Ⅱコリント 5:9-11. 啓 3:8. マルコ 14:7-8。
- IV. 宮の主要な部分は、金で覆われた木で造られていました。それは、人が神で覆われる、すなわち、神と結合され、ミングリングされ、合併されることを表徴します——歴代下 3:7. 列王上 6:20-21, 30, 32, 35. 7:48-51：
 - A. 主の回復は、神がご自身をもって彼の回復された民を覆うことから成っています。
 - B. 一とは、三一の神の中に深く入り込んで、わたしたちが金で完全に覆われるよ

うになる事柄です。真の一の中に保たれる唯一の道は、十分な量の神の経験を
持つことです——エペソ 4:3. コロサイ 2:19。

V. 宮の祭壇、鋳物の海、洗盤は、青銅でできていました：

- A. 青銅は、神の裁きを表徴します——出 27:1-8. 民 21:8-9. ヨハネ 3:14。
- B. 鋳物の海は、祭司たちがその中で洗うためであり、十二の牛が鋳物の海を支えていました（列王上 7:23-26. 歴代下 4:15. 出 38:8. エペソ 5:26）。十個の青銅の洗盤は、祭司たちがその中で洗うためではなく、犠牲を洗うためでした（歴代下 4:6）。
- C. 十個の青銅の洗盤を伴う青銅の海（2-6 節、列王上 7:23-40）が表徴するのは、とがめ、裁き、新しくする神の霊が、キリストの死に基づいて、地上における神の住まいにあずかる者たちからすべての消極的な事柄を洗い去ることです（ヨハネ 16:8. テトス 3:5. ヘブル 10:22）。

VI. 宮の柱は青銅で建造されており、それは神の裁きを表徴します——列王上 7:14-15. 啓 3:12, 22：

- A. 聖書において柱は、からだの生活を実行することにおける造り変えを通しての神の建造のしるしと証しです——創 28:22 前半. 列王上 7:15-22. ガラテヤ 2:9. I テモテ 3:15. 啓 3:12. ローマ 12:2. エペソ 4:11-12。
- B. 創世記 28 章 18 節によると、ヤコブは枕としていた石を取り、それを柱として立てました：
 - 1. その石が枕となることは、わたしたちが主観的にキリストを経験することを通して、わたしたちの存在の中に構成されたキリストの神聖な要素が、わたしたちの安息のための枕となることを表徴します——参照、マタイ 11:28-30。
 - 2. その枕が柱となることは、わたしたちが経験し、その上で安息するキリストが神の建造、神の家のための材料と支えとなることを表徴します——列王上 7:21. I テモテ 3:15。
- C. 神にとって有用な人たちは、絶えず神の裁き（青銅）の下にいる人たちであり、自分が肉の中にいる人であり、死と埋葬以外に価値はないことを認識しています——詩 51:5. 出 4:1-9. ローマ 7:18. マタイ 3:16-17：
 - 1. わたしたちは自分自身が無であり、また十字架につけられることだけに資格があると判断しなければなりません。わたしたちであること何であれ、わたしたちがあるのは神の恵みによってであり、労苦するのはわたしたちではなく、神の恵みです——I コリント 15:10. ガラテヤ 2:20. I ペテロ 5:5-7。
 - 2. 信者たちの間の分裂と実がないことの両方の理由は、青銅がなく、神の裁きが何もないからです。むしろ、高ぶり、自己高慢、自己弁護、自己義認、自己承認、自己の言い訳、自己を義とすること、他の人を罪定めすること、他の人を規則で縛ることがあり、彼らを牧養し、捜し求めることがありません。——マタイ 16:24. ルカ 9:54-55。
 - 3. わたしたちが主を愛し、青銅の人としての彼を経験するとき（エゼキエル 40:3）、彼はわたしたちの超絶した愛、限りない謙虚溫柔、無上の忠信、絶対

的なへりくんだり、極みまでの純潔、至高の聖と義、公明正大とされます
——ピリピ 4:5-8。

D. 宮の柱の頂にある柱頭には、「鎖に編んだ格子細工の網（格子のようなもの）」
がありました。これらは複雑で、入り交じった状況を表徴しており、その中で
神の建造における柱である人たちが生き、責任を担います——列王上 7:17. II
コリント 1:12, 4:7-8。

E. 柱頭の頂にはゆりとざくろがありました——列王上 7:18-20：

1. ゆりは、神にある信仰の生活、すなわち、わたしたちが何であるかによって
生きる生活ではなく、わたしたちにとって神が何であるかによって生きる生
活です。青銅は、「わたしではなく」を意味し、ゆりは、「キリストである」
を意味します——雅 2:1-2. マタイ 6:28, 30. IIコリント 5:4. ガラテヤ 2:20。
2. 柱頭の冠の上にあるざくろが表徴しているのは、豊満、満ちあふれ、美しさ、
そして命としてのキリストの豊富の表現です——ピリピ 1:19-21 前半. エペ
ソ 1:22-23. 3:19。
3. 網細工の削除することと、鎖で編まれることの制限とを通して、わたしたち
は神に信頼する純粹で単純な生活を生きて、命における神の建造のために、
キリストの神聖な命の豊富を表現することができます。

**VII. 宮の石は造り変えにおけるキリストの人性、造り変えられたキリストを表徴して
います——列王上 5:15-18. 6:7, 36. 歴代上 29:2. 歴代下 3:6：**

- A. キリストは神として、彼の肉体と成ることにおいて人の肉を着られました。彼は
肉にある人、すなわち、旧創造にある人に成ったので、人性の部分において造
り変えられる必要がありました——ローマ 1:3-4。
- B. そのように造り変えられたキリストは今や、神の建造の生ける石、基礎の石、
隅の石、かしら石です——Iペテロ 2:4. イザヤ 28:16. Iコリント 3:11. エペ
ソ 2:20. Iペテロ 2:6. ゼカリヤ 4:7. 3:9. 啓 5:6. 4:3. 21:11。
- C. 宮の石はまた、キリストにある信者たちを表徴しています。彼らは石としての
キリストによって造り変えられました——マタイ 16:18. ヨハネ 1:42. Iペテロ
2:4-7. 啓 21:11, 14, 18-21. 参照、ダニエル 2:34-35, 44-45。
- D. 新約は生ける石について語り（Iペテロ 2:5）、旧約は切り出された石について
語ります（列王上 5:15, 17-18, 6:7）。召会の建造のために用いられる石は内側で
生き生きとし、外側で切り出され（取り扱われ）なければなりません（IIコリ
ント 4:16）：
 1. 召会の何人かの兄弟姉妹は、石切り場から切り出されたばかりで、鋭い角が
多くある「荒れた」石にたとえることができます。彼らが接触するとき、人
々は傷つけられ、不快な感覚を持ちます。
 2. 建造され、他の人と組み合わされて奉仕し、他の人と戦いを戦い、他の人と
契約の箱を担ぐのに彼らは十分に安定していません。
 3. 宮の建造のために用いられる石はそれぞれ、原則において、すでに山で切り
出され、取り扱われていました。それゆえ、槌も斧もどの鉄の道具も音が聞

こえず、宮は静かに建造されました——列王上 5:15-18. 6:7。

4. 召会はその自己の「騒音」もなしに建造されるべきです。わたしたちが召会の中で聞くべき唯一の音とは、主の御名を呼び、喜び、賛美し、祈り、感謝し、歌うことから成る音、喜びの騒ぎの声です——詩 100:1-5. 使徒 4:10-12. ピリピ 4:4. ヘブル 13:15. I テサロニケ 5:16-18. コロサイ 3:16-17. 歴代上 6:31-32。

XIII. 聖書がわたしたちに告げているのは、宮の建造が完成するのに七年半と、無数の人の労苦を要したということです（列王上6:1, 38. 5:13-16. 9:20-21）。これは、キリストのからだの実際の中に入るために、わたしたちのキリストの経験が新しくされ、深められ、安定させられ、強められ、強化され、拡大されていることを示しています。これは、夜が明けて明けの明星がわたしたちの心に昇るまで、徐々に、「日ごとに」、「少しずつ」、「さらに明るく」なるからだの中の経験です——II コリント 4:16. 出 23:30. 箴 4:18. II ペテロ 1:19。